

第1章 我が国の無償労働の貨幣評価の推計方法

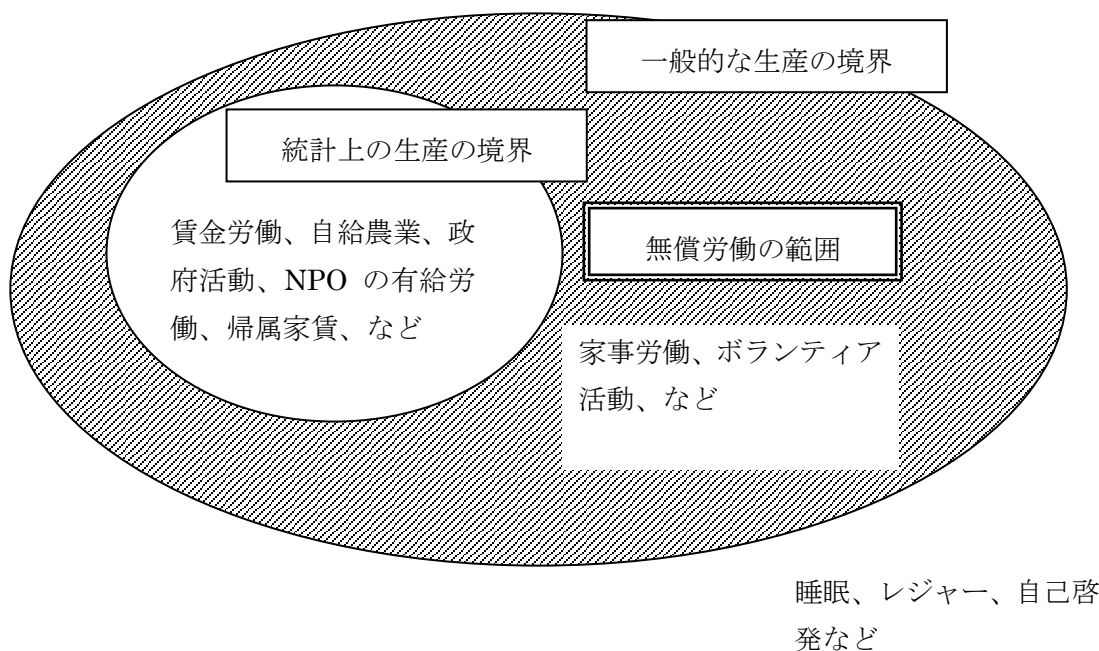
本章では、我が国の無償労働の貨幣評価の推計方法を概説する。なお、推計にあたって利用した統計やデータについては、別途参考資料に記載した。

1. 無償労働の範囲及び貨幣評価の方法

(1) 無償労働の範囲¹

国民経済計算体系（SNA）では、「生産の境界」について、国民経済計算の対象範囲となる「統計上の生産の境界」の他に「一般的な生産の境界」の二つが定義されている。この中で、無償労働の範囲は、「一般的な生産の境界」の内側で、「統計上の生産の境界」より外側にある部分を指す。この点は以下図表（図表 1-1）のように表される。

図表 1-1 国民経済計算体系における生産の境界の考え方と無償労働の範囲



ここで、一般的な生産の境界については、「人に頼むことができる」という第三者基準（ヒ

¹ 本節は、作間逸雄「無償労働の貨幣評価をめぐる諸論点」（無償労働に関するSNAサテライト勘定の構築と当勘定へのCGE分析の適用（平成15年度～平成18年度科学研究費補助金（基盤研究(A)）研究成果報告書 平成19年3月 研究者代表：有吉範敏）を参考にした。

ル基準²、委任可能性基準)によって特徴付けられている。そのため、無償労働とは、『人に頼むことができる』範囲(=境界の内側の意味、以下同様)の生産のうち、統計上の生産の範囲には含まれないものと言い換えることができる。

無償労働は、家庭内労働が主な対象となる。具体的には、家事(炊事、掃除、洗濯、縫物・編物、家庭雑事)、介護・看護、育児、買物が含まれる。これらは、いずれも、様々な市場化されているサービスを利用することができる(「人に頼むことができる」と考えられるものである。無償労働には、そのほかにボランティア活動が含まれる。ボランティア活動は賃金ゼロの有償労働であり、本来的には無償労働ではないとされるが、便宜上推計対象に含められている。

本推計では、この「第三者基準」を元に、以下の9種の労働を無償労働の推計対象とした。

<無償労働の貨幣評価の推計対象>

- a. 家事
 - a-1. 炊事、a-2. 掃除、a-3. 洗濯、a-4. 縫物・編物、a-5. 家庭雑事
- b. 介護・看護
- c. 育児
- d. 買物
- e. 社会的活動(ボランティア、献血、消費者活動、住民運動など)

(2) 貨幣評価の方法

無償労働の貨幣評価額を推計するに当たっては、家事や社会的活動等が産み出すサービスの価値を直接把握し、評価することが困難なため、人がそれらの行動に費やしている時間をベースにし、これを賃金で評価することとした。

<無償労働の貨幣評価の推計の考え方>

無償労働の貨幣評価額＝一人当たり無償労働時間×時間当たり賃金×人口

無償労働の貨幣評価については、どのような時間当たり賃金を使うかによって貨幣評価額は大きく異なることになるが、本推計では、以下の3つの考え方に従い3種類の賃金を使って推計した。

² Hill, T.P., “Doit-yourself and GDP,” Review of Income and Wealth, ser25, 1979

<無償労働時間を賃金換算する際の評価法>

A：機会費用法（Opportunity Cost method：略称はOC法）

- ・ 家計が無償労働を行うことにより、市場に労働を提供することを見合わせたことによつて失う賃金（逸失利益）で評価する方法。
- ・ 賃金を使用するため、評価額には、男女間の賃金格差などが反映することになり、無償労働の内容ではなく、誰が無償労働を行ったかで評価が変わるという問題が指摘されている。
- ・ 賃金換算の際には、厚生労働省「賃金構造基本統計調査」の産業計（性別・年代別）所定内平均賃金率を用いている。

B：代替費用法スペシャリストアプローチ（Replacement Cost method, Specialist approach：略称はRC-S法）

- ・ 家計が行う無償労働を、市場で類似サービスの生産に従事している専門職種の賃金で評価する方法。
- ・ 家計と専門職種では、規模の経済性や資本装備率の違いによる生産性格差が存在するとの指摘がなされている。
- ・ 賃金換算の際には、厚生労働省「賃金構造基本統計調査」の職種別所定内平均賃金率を用いている。

C：代替費用法ジェネラリストアプローチ（Replacement Cost method, Generalist approach：略称はRC-G法）

- ・ 家計が行う無償労働を家事使用人の賃金で評価する方法。
- ・ 家事使用人は、家計における無償労働のすべてを行うわけではないので、社会的活動を評価するのに必ずしも適していないとの指摘がなされている。
- ・ 賃金換算の際には、既存の調査結果などを基に、家事使用人の賃金率を推計したものを
用いている。

<無償労働を含む生活時間の把握方法>

無償労働時間を含む生活時間の把握方法には、プリコード方式³かアフターコード方式⁴が採用されている。日本では、総務省「社会生活基本調査」のA票でプリコード方式（7万6千世帯）、B票でアフターコード方式（4千世帯）を採用している。

今回の推計では、時系列比較を重視したため、まずは、プリコード方式での推計を行った。

³ プリコード方式：あらかじめ設定された行動の起点と終点の時刻を記録する方法である。

⁴ アフターコード方式：回答者が事後的に活動を記録する方法である。

2. 推計内容

以下の①②を推計した。

① 日本全体での時系列比較（1981～2006年）

男女別・年齢階層別、有業・無業別、配偶関係別、に推計した。

ただし、1996年以前は、従来の推計結果を一部修正したものをを用いた。

② 項目別の都道府県間比較（2006年）

男女別・年齢階層別、有業・無業別、に推計した。